

## <要旨>

美しい円錐型の外観で日本を象徴している富士山だが、過去に大規模な噴火を引き起こした活火山であり、現在も火山活動が続き、いつ噴火が発生しても不思議ではない状態に成りつつあることを知る人は意外と少ない。もし、現代に富士山噴火が起これば甚大な被害が予測され、特に降灰災害による被害は生活の基盤である社会インフラに多大な影響をもたらすとされている。

本研究では、過去に発生した富士山噴火の情報から噴火に関する知見を深めるとともに、降灰処理対策について法制度の観点から調査を行う。そのうえで、神奈川県及び各市町村の地域防災計画から現在の富士山噴火及び降灰処理対策に関する計画の進捗状況の評価と課題の指摘を行い、富士山噴火における理解と危機意識の向上を図ることで、新たな法制度の考案とそれに伴う計画の整備を推進する。